「税金から始まる助け合い」

亀田　采佳

私は毎月、近くにある皮膚科のクリニックに通っています。なぜなら、私はアトピー性皮膚炎があり、肌に薬を塗らなければならないからです。それでも毎月のように通院できて、薬ももらえるのは、税金があるからだな、と実感しています。医療費は、区が助成してくれており、その財源が税金だからです。

私は、小学生くらいのころからずっと通院しているので、病院に行ってもお金を支払っていないな、と思っているだけでした。そのため、医療費が税金で助成されているのだと知りませんでした。そもそも、私は消費税くらいしか税の種類を知らず、「どうしてお金がかかるのかな？」と不思議に思っていました。私にはそのくらいの印象でしかなく、何のために納めているのか知りませんでした。

日本では、納められた税金は、社会保障関係費に使われることが最も多く、三分の一弱を占めています。社会保障関係費とは、医療年金等に使われるお金のことです。つまり、私の医療費は、社会保障関係費から助成されているということです。また、年別に比べると、社会保障費は右肩上がりに増加しており、特に、年金の金額が大幅に増加しています。それは、日本の高齢化が進んだためだと考えられ、これからも増える見込みだそうです。また、税金には他の使い道もあります。例えば、私たちの教科書には税金が使われていますし、図書室の本にも税金が使われています。私は図書室を多く利用しますし、読みたい本のリクエストもよくしているので、税金があるお陰で、楽しく本が読めています。様々な人が納めてくれた税金で図書室の本が買われているのだと思うと、これからも大切に本をあつかって、きれいなままの本を残していきたいと思います。

税金は、社会保障から教育、私たちが利用するありとあらゆるものに使用されています。税金があるから、私のアトピー性皮膚炎も良くなりましたし、好きな本も読めます。しかし、税金の使い道の内、約四分の一が国債費です。それにもかかわらず、国債残高は上がる一方で、国際的に見ても、対 GDP 比で日本の債務残高を他国と比べると、突出して多いです。税の授業で、日本は「低負担・中福祉」の国だと聞きました。少子高齢化で社会保障費の負担も増えていくなか、日本が未来どうなっていくのか、責任ある方針を決めていくべきなのではないかと思います。

税金は、一人ひとりが責任を持って納めることで社会を支えるしくみです。「税金が使われているのだな」と目に見えてわかるものは多くないと思いますが、税金は縁の下の力持ちです。税金は負担になるから嫌だと思うのではなく、ともに助け合いの精神を持つことが大切だと思います。未来へ向け、皆が責任感を持ちながら納税できる、助け合いが税金であり、未来社会へ表れるものなのです。